

滝川市長 前田 康吉 様

滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書(案)

令和6年2月 日

滝川市環境市民委員会

1 趣旨

この評価報告書及び提言書は、滝川市環境基本条例第 29 条に基づき、滝川市環境市民委員会（以下「委員会」という。）として調整した評価及び提言などについて、滝川市長に対して年に一度、提出するものである。

なお、ここで評価対象とするのは前年度（令和 4 年度）の取り組みに対する評価を含め、計画期間内での施策などの進捗状況についてである。

2 令和 4 年度までの取り組みに関する評価について

令和 4 年度までの取り組みについて、別添「評価シート」のとおりとし、特に次の点について評価と提言する。

1) 環境にやさしく資源を有効に活用する循環型社会を目指すまち

滝川市の 1 日・1 人当たりのごみの排出量は、転出等による人口減少や遺品整理などに伴う粗大ごみの排出量が増加傾向にあると推測される。また、人口動態としては、1 世帯当たりの人数の減少や単身世帯が増加傾向にあることから、市民のニーズに合わせた小さいごみ袋の導入を検討する必要がある。

また、ごみの分別について燃やせるごみや燃やせないごみの中にも、資源となるものが混入していることから、今後も継続して市民への分別周知を行うことが必要である。そのような中で、令和 3 年度に続き、市職員によるごみの分別に関する講座を開催し、市民のリサイクル意識向上に努めたことを評価するとともに、より一層の拡充に期待する。

2) エネルギーを大切にし、環境への負荷の少ないまち

町内会等が維持管理する街路灯について、水銀灯やナトリウム灯から消費電力の少ない LED 灯への切り替えに際し、補助金制度を設け、切り替えの推進を継続していることを評価する。また、令和 4 年度は市内のコミュニティセンターの体育館照明をすべて LED 灯に切り替えたことも評価する。

3) 環境教育の充実について

環境市民大会「環境シンポジウム in 滝川高校」について、新型コロナウイルスに感染した生徒への対応策として、市民と同じくオンライン聴講を図り、環境に対する学びを充実させたことや、滝川高校のみならず各学校において、環境教育の促進を図っていることを評価する。

また、環境学習リーダーについては、昨年度、模擬的に実施した高校生同士の経験が活かされ、保育園児と活発な交流を行ったこと、さらには、「環境学習リーダーAdvance」へ環境教育の充実に繋げたことを評価する。

3 今後の取組に向けた提言について

今後に向けたあるべき姿や方向性、検討を要望する事項については、次の点を提示する。

1) ごみの分別・減量化について

ごみの分別を行うことで、ごみ減量化や限りある資源の有効活用に繋がることを知らない市民が多いと思われることから、ごみの分別が市民に与える影響を明確にさせていただきたい。

また、不法投棄の現状等について、ボランティアでの清掃活動を通じた様々な活動に参加したからこそ、知ることができることもあるので、今後さらに市民に参加していただけるような周知や働きかけを行っていただきたい。

また、子供たちへ、市民一人ひとりが出すごみについて学習の場を設け、ごみ減量化に向けた各家庭でできる簡単な分別アイデア方法についても周知や働きかけを進めていただきたい。

2) 地球温暖化対策・脱炭素化の推進について

令和5年に北海道において「G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合」が開催されたことで、北海道内での脱炭素社会実現に向けた機運が高まっている。

しかし、家庭や事業所等から排出される二酸化炭素の排出量は、まだまだ多いと推察されることから、2050年のカーボンニュートラルの達成に向けては、市民と事業者が一体となって取り組みを進める必要がある。また、カーボンニュートラルへの取り組みは、SDGsが掲げる「エネルギーをみんなに そしてクリーンへ」とする目標の取り組みにも繋がるため、そのためには、意識や生活態様の変化を促すことが重要である。

今後、市としてその先頭に立ち、様々な場面を通じて市民や事業者に対し、比較的容易に取り組める情報の収集と発信に努めていただきたい。

委員会としては、今後、滝川市が環境施策を展開していく中で、以上の各事項について十分に留意し取進めるよう要望し、報告及び提言する。

令和6年2月 日

滝川市環境市民委員会 委員長 高瀬 慎二郎